

# 記念講演

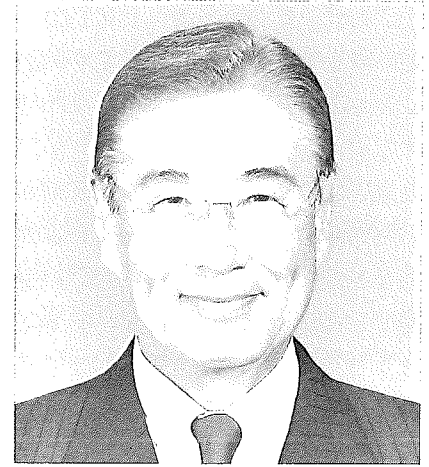
## 講演：『2020年東京オリンピックの レガシーとロータリーの多様性』

2016年11月12日(土)

### 【講師】

RI第2580地区パストガバナー  
元東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会 CEO

みずの まさと  
**水野 正人氏**  
(東京RC)



### 【略歴】

- 1943年5月25日生
- 甲南大学 経済学部 卒業
- 米国ウイスコンシン州 カーセージカレッジ 理学部 卒業
- 1966年(昭和41年)3月 美津濃(ミズノ)株式会社 入社
  - 1988年5月 同 代表取締役社長、
  - 2006年6月 同 代表取締役会長 就任
  - 2011年9月 退任
- 2012年10月 ミズノ株式会社 顧問就任
- 2014年7月 同 会長就任 現在に至る

### 【公職歴】

- 1991年6月～2011年9月  
(社)日本ゴルフ用品協会 会長
- 1996年2月～2015年7月  
国際オリンピック委員会(IOC)スポーツと環境委員会 委員
- 1999年5月～2011年9月  
(財)ミズノスポーツ振興財団 会長
- 2000年5月～2004年5月  
(社)日本スポーツ用品工業協会 会長
- 2001年4月～2013年6月  
(財)日本オリンピック委員会(JOC)理事
- 2001年8月～2004年7月  
世界スポーツ用品工業連盟 会長
- 2002年4月～2011年3月  
(財)日本アンチ・ドーピング機構 理事
- 2011年11月～2014年3月  
東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会 CEO

### 【賞歴他】

- 1990年5月 カーセージカレッジ 名誉博士号
- 2001年6月 オリンピックオーダー銀章受章
- 2004年4月 藍綬褒章受章
- 2010年9月 世界フェアプレー賞受賞
- 2014年11月 旭日中綬章受章

### 【ロータリー歴】

- 1979年6月 大阪ロータリークラブ 入会(1985年迄)
- 1985年12月 東京ロータリークラブ 入会
- 2004-05年度 同 ロータリークラブ 会長
- 2011-12年度 国際ロータリー第2580地区 ガバナー

R財団大口寄付者 米山功労者マルチプル

皆さんこんにちは。辰野RI会長代理、本日はご苦勞様でございます。そして高良明ガバナー、そのまたガバナーを支えるこの地区の役員の皆様、そして第2590地区57クラブの皆様方どうもこんにちは。そしてこれだけの地区大会をやるのに、地区の大会の委員会の皆様方、大変に素晴らしい場所を設えられたことに心より敬意を申し上げます。

今日はですね、2020東京大会のレガシーとロータリーの多様性というお話を今から5時35分までお話をさせていただきます。本当にこの地区大会で誰にスピーカーをお願いしようかなということで、皆さま方いつも頭を悩まされる部分だと思いますが、本当に今ご挨拶がありましたように、わざわざ私の方にまで実行委員会の皆様に来ていただいているいろいろお話をいただいたということに厚く御礼を申し上げます。さて2020年東京オリンピックパラリンピックの年がちょうどロータリーの100周年にもなりますから、そこをちょっと重ね合わせて今日はお話をさせていただきたいというふうに思います。

私たちは本当に奉仕団体です。ロータリーは奉仕団体です。しかし、私たちのこの奉仕団体は世界にあまたある奉仕団体とはひとつ違うところがあります。それは何ですかと。職業奉仕です。これは、このロータリーができるときに、ちょうど20世紀当初シカゴでは大変な経済成長のもと、やっぱりなかなか誠実に約束を守らない人がいる。弁護士のポール・ハリスはこれは大変だと。本当に自分たちが信用のおける仲間とそういう仕事をしようぜということで、何人か集まってそういうように信頼感、高潔な職業道徳というもので始めました。一週間に一回、みんなで順番にめぐって昼飯を食いながらいろんな話をしようということで、ローテーションでそ

の場所を変えていこうというところからロータリーという言葉が出てきたというふうに聞いておりますが、そのようなことで、ロータリーは職業奉仕を大事にしています。ポケーションサービスといいます。ポケーションといいますのは、当然職業ですが、英語にはプロフェッションとかオキュペーションとか色々なその職業に対する表現があります。ポケーションという言葉はちょっと違います。これは、まさに天職という意味であって、私たちがいろいろ日常やっているのは、自分たちの天職だと。これを大事にして、これを自分たち高潔な職業道徳でしっかり進めていくと。そういう気持ちで信頼のおける仲間といろいろ取引をすれば実は職業はうまくいくと。そこで私たちに出了その利益の一部であり、その所得の一部でなんとかみんなにより良い奉仕をしよう。ただ奉仕をするだけではなくて、仲間だから、良い親睦をして、本当に楽しい、有意義な時をともに過ごそうというのが、実はロータリーだと思います。それが1905年のことで、2005年に国際ロータリーは100周年を迎えました。

米山梅吉さんは、もともとは吉田さんっていったんですけれども、江戸に生まれました。慶応4年だと思えますが、お父さんが若くして亡くなったので、実家である三島の方に行きまして、沼津中学から今の青山学院で特に英語を勉強して、そして海外に行ったりいろいろな仕事をして、随分出世をして、若くして米山梅吉さんは昔の三井銀行にお勤めになって、1909年には常務になられました。1920年に東京ロータリーをつくらうということで、そこから数えて100年が2020年。ちょうどオリンピックパラリンピック開催の年になります。

よって、私たちはこのロータリーがどういうものであるか。どうあるべきかということはこの100周年を機にもう一度考えてみようということで、今100周年委員会が進んでいます。そこでは3つのことをみんなで話し合おうと。一つはビジョン。ロータリーはどのようなものかということをもう一度私たちが再認識する。そしてこの100年たった日本のロータリーはどのようなふうに進むべきかをみんなで話をする。これがひとつ。一つは2020年にどのようなイベントをするか。記念式典、あるいは2020年のオリンピックパラリンピックに絡めてなにかできることがありますかと。もう一つは日本はこれだけのロータリアンがいる国でありますから、今は約9万人。辰野RI会長代理は10万人をみんなで目指そうということをおっしゃるから、みんなでやはり私たちがとしては増強を心がけるべきだということに思いますが、そういう日本のロータリーも、じゃあRIにどれだ

けものを言っていけるんだ、日本の独特のロータリーの在り方というものが、もし世界の中で少し違ったら、やはり日本は日本として、あるいは模範になるということが大事じゃないかと。ということになるなら、日本はやはり模範的なロータリークラブの運営をすべきだと。それをやはり世界に広げていくということが必要なら、私たちはそれをどのようにやっていくかということでもその組織をどのようにやっていくかということも、それを100周年委員会では討議をされています。私はちょうどその中でイベントの方の委員会に所属しております、2020年にはまず34地区ある各地区が記念の鐘をつくりましょう。それを各地区のクラブが順番に回して100周年を祝って鐘をたたきましょう。そしてそれを2020年の11月、ロータリー研究会の時に合わせて式をしたら、そこに34の鐘を持ってきて、みんなで一度に点鐘をして、100周年を祝いましょうというようなことが、今少し段々具体化しております。そうすると、何人の方がいらっしゃるかということもこれから調べていかないとけない。たくさんの方がいらっしゃるなら、私たちはそれなりの場所を確保しないとけないし、それなら大きい所なら早くその場所を予約しないとけないということで、今その100周年に向かって、話が進んでいます。

私たちは今年ちょうど規定審議会というのがありまして、大きく4つの項目がみんなで、この日本のロータリーでも話をしています。一つは入会金を取らなくてもよいと。あるいは会員資格は奉仕をする志がある人ならだれでもいいじゃないかと。それから、例会が多すぎるならひと月に2回でもいいじゃないか。というような議論があつて、一応採択をされましたが、これは各ロータリークラブが自分たちの細則はこうあることを決めればいわけですから、入会金も今までどおり。会員資格も今までどおり。例会も今までどおりでも結構です。ただ一つ、これマストというか、どうしてもやってくださいというのが、人頭分担金を4ドル上げると。現在55ドルですか。ですから59ドルになるし。大体6千円で毎年400円ぐらい上がっていくというのがここ3年間そのようにしてくださいねというのが決まりました。これはジョン・ヒューコRI事務総長が、どうしてもそのシカゴの600人のオフィスで働いている皆さんを確保しておきたいということから、どうしてもある部分の収入を上げないとけない。それで会費を上げます。そして増強に対して割合に強いことを言っているのは、それは人数が増えれば収入が増えるということですから。ということまで勘ぐるとちょっと動機が不純かなとは思いますが、し

かしそのように決まりましたから、私たちはしばらくはそのように則って、民主主義ですから、決まったらそのままやっつけようということになるかと思えます。

今、世界は変わりつつあります。ヒラリー・クリントン対ドナルド・トランプ。まあメディアはクリントンが勝つということを相当な自分たちの調査の結果としてずっと言っていましたから、私たちがクリントン勝つかな。なおかつトランプの言い分がとっても荒っぽい。メキシコとアメリカの間に壁をつくらう。その壁はメキシコが金を払って建てろとかね。まあその日本とアメリカのこれだけの連帯を崩すように、アメリカ軍の費用を全部日本が払えとか。日本も相当、いいバランスで払っていると思うんですが、それを全部日本が払えと言ったり。いよいよよとなったら日本は核兵器持たばいいじゃないかというようなことを言ったりですね、相当荒っぽいことを言いました。そして三回討論会があります。大統領候補の討論会が三回あつて、聞くに堪えないまことに醜い討論会で、お互いの悪口をいいあつたり、あるいは女性蔑視の発言をしたことに対することとか、いろいろお互いの悪い所を引っ張り出して、トランプ自身が私が大統領になったら、ヒラリー・クリントンを牢屋にぶち込むなんてことまで言いましたから。だからあれだけのことを言ったら、普通の良識ある人なら、こりゃあトランプは無理やでというふうにも思っていました。ところがどうでしょう。票を開けたら、実はそうではない。トランプの投票総数は実はヒラリー・クリントンの方が少し多かったけれども、選挙人を選ぶ方式が違いますから、各州で過半数をとったものが総取りということで、選挙人を数を挙げていきますから、そうするとどう結論、トランプが勝つということになります。ところがトランプになるというふうに進んだ途端に、どうもトランプは言い分がだいぶ変わってきたと。何か人をあおっておいて、本当にこれでいいんですかということもちょっとあるんですけれども、しかしどうでしょうね。あおって不満層の皆さんを自分の方に取り入れて、さて大統領になったらそうはいかないという、トランプに投票した人たちは、え？あんたはこんなことをやって言っておきながらやらないじゃないのということに対して、また大きな反発が起きるかもしれません。ですから、どうしてこのようになったのかということ調べていくと、格差です。アメリカにも白人低所得者層という人たちが多くなりました。雇用の統計から行くと雇用はそんなに減っていないけれども、今までいろいろな役員を務めていた人たちが、会社が悪くなったからハンバーガーの店でハンバーガーを売っている。これも雇用は雇用

ですから。別に職を失ったわけではないということでは、雇用統計上はそれはちゃんとある程度なっているんですけども、収入は減っていると。収入が減るとやっぱりみんな不満に思いますから、そういう人たちはやっぱり相当いるという社会。どうでしょう。中国がずいぶん経済成長してきて、そして頭打ちになりました。そうすると今までに必要なエネルギーがそんなにいなくなる。という、あつという間に原油価格が100ドルを超えたものが一番低いと35ドルまでにもなると。という今度は産油国が大体70ドルぐらいでペイするものが30何ドルになると到底生きていけない。ということになります。中東の産油国は、今サウジアラビアも税金を取るというふうに変りつつあります。そして、中東ではシリアの問題。あるいはISが台頭してくる。すなわちテロを無差別にやると。そして難民がヨーロッパに押し寄せてくると。そうするとヨーロッパの各国は人道主義といいながらそれには限界があると言って各国がどちらかという、うちの国はもうあまり協力しないと。そうすると保護主義というような自分たちはみんなから離れていくと。イギリスがEUから離脱するということを決めました。これも直前まで残る残留するって言っていたのがひっくり返って離脱すると。これはEUで国と物が自由に動くということで東欧からどどんイギリスにきて職を奪っていくということに対する反発があつた。ということで、そうするとEUの各国で段々その保護主義が台頭してきて、なかなかうまくいかない。そうするとロシアはどうなるかという、プーチン独裁で、親衛隊1万5千人つくって、機密警察ですよ。それで締め上げていくという恐怖政治に変わりつつある。ところがロシアの収入の半分は石油ですから。原油ですから。それが価格が落ちるとロシア経済も真っ青。その隣は中国は習近平。習近平は先ほど言ったように経済がどどん落ち込んでいくから、それに対して国民の不満を違う方に持って行かないとけないということで、尖閣諸島とかあいつたところを日本が悪いつて言って、国民の不満をそちらの方へ向けようとする。北朝鮮はミサイルあるいは核弾頭を持つてるぜというようなことで世界を脅す。韓国はパク・クネ大統領がいまや70万人とか80万人のデモが行われるというんですが、支持率は若い人では0%。5%しか支持率がないということですから、また大変にアジア全体として異常な状態になっていると。そしてブリックスと言われた、ブラジル、ロシア、インド、チャイナがみんなこぞって大変な状態になっています。

ブラジルはリオのオリンピック、一応出来ました。放

送上是全競技うまくいったんですが、後ろにはむちゃくちゃいろんな問題がありました。東京オリンピックも招致はうまくいきましたけれども、あそこで一応計画を言ったものがなかなかそのとおりにはいかない。ある部分コストが上がり人件費が上がって、あるいはどこかで何かの作用があってコストが上がってきているということでは、これまた日本では大きな問題です。しかし、日本の場合はそれでもきちっとできるということだと私は信じていますが、そういうことで世界がずっと変わってきている。それはやっぱり経済が減速することと、格差が大きくなる。格差が大きくなると、人間はやはりそれに対して不満を持ちます。これが今から私たちを取り巻く世界経済の大変に危惧するところなんです。そうするとどうです。ロータリアン、ロータリーの皆さんは職業をもって、その職業を高潔な職業道徳で進めていくということで、しっかりいきますよ。アメリカ、ヨーロッパではウィンウィンシチュエーションって知ってますか？あなたもよければ私もよい。売り手もいいし買い手もよい。ということでOK握手ということなんですけれども、石油を売る方と買う方でどうのこうの言ったらそれだけできますから、消費者は置いてきぼりになって、高いがそれを買わないといけないということになると。ところが日本は違います。日本は三方よしという職業道徳があって、売り手よし買い手よし、そして世間よし。この世間よしは実は私たちの職業道徳。本当に倫理観が、その世間よしというところにこれが出ているんだということにして、やっぱり一味も二味も違う国かなというふうに思います。

そのようなことでロータリーの在り方も少しずつ変わってきます。規定審議会が出てきたのはやはり、もっと多様化していかないと、メンバーシップはなかなか増やせないということの表れかなと思います。そういう中で私たちは日本のロータリーはどうあるべきか。数を追うべきか品質を保持するべきかというところは、これもどっちの極端もないですから、その間のどこをとるかということだと思います。ロータリーが少し、反省しないといけないのは、パネルジーRI会長が、平均的ロータリアンという言葉を行いました。平均的ロータリアンって一体なに？という、お金が喰るほどあるロータリアンと、普通の収入のロータリアン、時間が有り余っているロータリアンから仕事が忙しくてどうしようもないロータリアン、それからロータリーの知識がいっぱいある人から、入ったばかりで何も知りません、あるいはあまり勉強していませんというそのどこか、あるいはキャリア。100年もロータリーにいるぜって人からまだ入

たところですよという人の平均値、あるいは情熱。ロータリーに燃えてますって人から、入れてもらって何していいかわかりませんという人までいる。その時間的な余裕、経済的な余裕、知識、経歴、あるいは情熱というものが、どこかで平均値があるんです。ところがロータリーのリーダーになるような人は、この平均値より上です。それはある程度お金の余裕もあります。時間も暇もあります。知識もあります。あるいは長いことロータリーやっています。それからロータリーに燃えています。こういう人たちがリーダーになって、困るのはそれを押し付けるとその平均より下の皆さんは、いやーあんなに押し付けて、こんなことやれ、あんなことやれ、これだけ金出せ、何出せ、働かんかい。こうせんかいと言われて、もう何か理由見つけて辞められないかということになってくる可能性があります。よって、私たちはどこかいいところでやっていかないと、いや、前年度よりはよくする。これは発展の一つの基盤になりますね。自分の自己ベストを上げるのはよりよくなっていく基本ですから。しかし、それが行き過ぎるとやっぱりみんな病気になるたり色々するから、ロータリーもどこかいい落としどころで、ある程度無理のない、むちゃくちゃ圧力をかけられていやな思いをすることがないようなロータリーにしていけないと。今減っていつているロータリアンをもう一度増やそうと思うと、もうちょっとリラックスしてやっていかないとけないんじゃないかなというのが、私が日頃ちょっと感じるところですから、ロータリーのリーダーの皆さんが、自分と同じようにしないと承知しないという大変になってくるということだけは、ちょっと私たちとしてもう一度認識する必要があるのかなというふうに思います。

さて、そういう日本のロータリーが100年を迎えるときに、ちょうど東京オリンピックパラリンピックが開催されます。実は2011年の3月11日に大きな地震がおきました。あの時私は日本オリンピック委員会の副会長で招致戦略本部の本部長をやっておりましたから、いよいよその招致委員会をつくる前の時に、さあいろいろ準備を進めていって、という時に地震がおきました。あれを私は見て、私はもうオリンピック招致もないかなーと思いました。2週間後にIOCの副会長が来ましたから、案内してずっと東京中走り回りましたら、東京別に痛んでないじゃんという話があって、東京はそう痛んでいるわけじゃないけれども、しかしこれだけのことが起こって、私があまり招致招致言っていると、承知せんぞと言われるんじゃないかと思って、本当にどうしようかと考えていました。それで石原都知事と武田会長と私たち

が色々話し合った結果、被災三県の知事さんにちょっと話を聞きにいこうということになりまして、聞きにいきました。そうすると、三知事さんが揃って、オリンピックやってくださいよ。まあオリンピックが来るとなると、経済もまた戻ってくると。ひいてはよりよい復興ができるということで、賛成をしてもらいました。で、私は4月頭にロンドンであった大きな国際の会議に行つて、その時に、ある紙をつくって、セーフシティ東京。安全な町 東京。ということで、確かにこんな地震があつて、こんなに被害がありました、スポーツはみんなの元気をつくるし、また東京はこんなに安全ですということをみんなに配りました。そうしたらいろんな連中が来てですね、しかし、日本はなんという国だということですね。どうということ？と聞いたらですね、あれだけのことが起こったら、自分の国だったら略奪だとか暴行だとか暴動だとかむちゃくちゃ起こるよ。ところが日本はどう？あれだけみんな列をつくって、秩序を守って、みんなが助け合つて、こんなにする国というのが本当にあるのか。信じられないというようなことを言いました。その時に、日本という国はすごい国だなと。みんなね、その実、いろんなことが起こるとそんなことになってしまうんだということもみんなは言ってますね、ああそうか。日本はそんなにいい国なんだと、その時に世界中から、日本が秩序ある国だということが認められたというふうに思います。

9月に招致委員会を編成して、先ほど紹介いただいたように、利益相反ということ。利益相反とはご存知ですか。利益相反とは、市長さんが建設会社を持って、市の建設予算を自分の建設会社に流すことは利益相反になるわけですね。そういうことになってはいけない。ミズノはオリンピックのオフィシャルサプライヤーですし、そういうことでの招致をするとやっぱり利益相反にとられる恐れがあるから、私は会社を辞めました。招致だけをやりますということで、関係あるものを全部辞めさせてもらって、そして招致に集中しました。本当に多くの皆様方のご協力を得て、うまくいきました。さて、オリンピック・パラリンピックの開催意義、なんででしょう。二つあります。一つは当然、立派な大会を開催する、安全・安心・確実・清潔・感動とか夢とか元気とか勇気を世界の人々と共有する素晴らしい大会にする、世界の模範になる大会をやる、これは開催意義の一つです。でももう一つはなんですかということ、大会があつて社会はよくなりましたか、いいものを残しましたか、よく私たちはレガシーといいますが、レガシーを日本語でいうと遺産っていつて、何か死んだ人が残すみたいですが

れども、実は大会をやることによって、何が残りますか、残せますか、いかに健全な社会をつくれますかというのが、もう一つの開催意義です。一つはいい大会をやる。一つは大会をやつてよかった、こんなにいいことが日本にあります。

ちょうど半世紀前の64年の大会の時は、どうですか。高速道路をつくり、空港を整備し、新幹線をつくり、競技会場をつくりという、どちらかというと、インフラを一生懸命やって日本経済が発展する基盤になりました。でも、21世紀型のオリンピックはそれでいいのかというとそうではない。特にインフラは整っています。滝川クリステルがおもてなしと言いました。おもてなしというのは、どうです。皆さんが海外に行つてお友達がおいしいもの食べにいこう。なにしようかと本当に色々してくれますよね。じゃあ日本のおもてなしは何なのという、何ですか。空港降りて、バスに乗ってシューっと走ると本当に揺れない。鉄道は時間通りに来ます。本当に安全な町で安心してどこでもウロウロできる。これが実はおもてなしの基盤なんですね。その上にいろいろなことをやるから、本当の素晴らしいおもてなしができますよ。

皆さん例えばリオに行つて、いろいろ見るけれど、もしかしたら強盗に遭うかもしれない、誰かが暴力をふるうかもしれない。そんな恐ろしいところに行つて、なかなかゆつくり楽しめない。日本は違いますよ。日本は本当に安全、安心ということで、これが本当のおもてなしのベースになるわけですから、そういう意味で1964年の大会から2020年の大会は相当私たちがやることは変わってきます。いい大会をやるために組織委員会がいろいろやっていますけれども、小池都知事はどちらかというとインフラ、いいレガシーを残そうということで、どれだけお金をかけて競技会場をつくってもあとが本当に赤字の垂れ流しじゃ大変だよ。だからどれだけ本当に維持管理にかかるんですかと。どれだけメンテナンスが必要ですかということも考えて会場をつくっていきましょうということも言われています。そのとおりだと思います。ポート会場が本体工事だけで69億だった。周辺整備の費用は入れておりませんが、それが500億になった。どうしてそんなにかかるのということで、長沼の仙台のポート会場の可能性がありますよと言ったら、500億が急に300億になるということだから、残り200億はいったいどういうことだということになります。だから、何かやはり日本はオリンピックをやるということで、そういうものの準備が少し変わっているのかなというふうには思います。

私はちょうどオリンピックパラリンピックを招致した年が70歳で、JOC日本オリンピック委員会の定年は70歳ですから、私はその時に卒業して、IOCもちょっと委員会入ってありましたけれども、70歳定年でひきましたので、これから組織はやはり若い人がやらなければいけないと思って、私は組織委員会には入っていませんが、どうも何か違う力が働いてああいうふうになっているのかなと思います。

しかし、オリンピックは成功させなければいけないし、本当にいいレガシーを残さないといけない。じゃあそのレガシーって何かというと、これはまた二つあります。一つは有形のもの、触れるものですね。一つは無形なもの。有形なものは何ですかというと、競技会場もあります。しかし、例えばパラリンピックをやるのにバリアフリーは本当に整っていますか。私たちが本当に車いすに乗った時に、目の前に何かありますか。上を見ないと見えないとか、外国の方がアルファベットの表示で歩かないとか。大きさはどうかとか。そういうバリアフリーというものをしっかりつくるとか。あるいは、私はちょっと申し訳ないけれども、間違えたことがありました。実は警備はそんなにお金かからないと。世界でいけば最も安全な町だから、そしてオリンピックを標的にするテロは起こらないと思っていました。というのは、そんなところでテロをやったら自分の国の同胞を痛めることにもなるわけだから、そういうことはきつとないだろうと思っていたら、今ISはもう無差別ですから。誰があんな世にいかうと関係ないんです。テロを起こして自分たちの存在を示すというような人たちはなにをするかわかりません。という警備は随分、もっとカメラを入れるとかいうことで、整備していかないとはいけません。それは有形ですね。それから環境。環境問題も大変ですから。もっと、例えば自然エネルギーを使うとか、いろんなところで電力も節減できるようにするところでは、環境も有形な遺産になるだろうということになると思います。

ところが無形の遺産って何ですかということになると、無形の遺産こそ、実は我々ロータリーもその一部分を担えるかなというふうに思います。無形の遺産は、文化、教育、環境、国際交流、ボランティアリズム、観光、その他色々あるんですけれども、あえて言えばニュービジネスが主です。文化、フランスの教育学者が古代オリンピックを研究したら、スポーツだけじゃないと。その周りでいろんな文化活動をやっていました。歌を歌い、詩を吟じ、いろんな絵を描いたり、いろんな文化活動が周りにあった。オリンピックは単にスポーツだけで

はなくて文化も大事だということ。スポーツと文化ということ。IOCは言いましたから、日本古来の文化から、伝統ある文化から海外の文化まで融合させていいものをつくっていくということは大事でしょう。二番目は何ですかということ。教育です。教育は今、世界で子供の学力コンテストをやるとですね、日本はそんなに悪くはないけれどもフィンランドが一位。なぜフィンランドの子供はそんなによくできますか。というと、フィンランドで学校の先生は教えません。教えない。どうするの。子供に考えさせる。すなわち教えるというのは一方通行でいろいろ教えるわけですけども、日本の子供は学力コンテストで受けると、ああこれできた、あれできた、だって教えてもらったから。あ、これできない、あれできない、だって教えてもらってないもん。当たり前のようにして、できなかったら教えてもらってないって言います。フィンランドの子供ははなから解いていきます。できないものもある、できるものもある。しかし、挑戦する、考える、これが本来私たちが教育の原点にあるものじゃないかと。考える力、いろんな問題にあったときにその問題を解決する力というものを日本の子供たち、我々も含めて、本来持つべきであって、今日本はどちらかということ、責任を誰かに振り替えて自分は何もありませんと言ってですね、自らこんな問題があるからそれに対して挑戦しよう解決しようというよりは、人のせいにしたくなる日本を、今子供たちを本当に考えて問題を解く力、問題に直面した時の、それは学問だけじゃないですよ、自分が生きていくという中で、いろんな問題に対して解決する力というものを持たせなければならない。それをやはり教育の中でやっていく。文科省も別にそのようにしていないわけではなくて、今高校生はグループディスカッションをやって、そして代表が自分たちが考えたことを発表して、私たちはこう考えますということ言うようになってきていますから、なんら悪い方向にはなっていないけれども、日本の教育もこの2020年大会を機にですね、本当にもっと劇的に変わるべきかなというふうに思います。三番目は環境です。環境が変化している、これを止めることはできるのかということ。ちょっと難しいかと思いますが、しかし、できるベストはしないといけない。地球最後の日がきても、私は今までどおりりんごの木を植えると誰かが言ったといいますが、私たちはやっぱり最後の最後までしっかりやる必要があると思いますから、何もやらなくていいというのではなくて、環境に対してしっかりやらなきゃいけない。これを気象庁がもっとね、本当は我々の気候はこんなに変わっていますよということと言わなきゃいけないんだ

けれども、なぜか言いません。そういうことでは、文化、教育、環境、そして国際交流。日本は島国ですから、日本語だけで通じるから。ところがこれが国境が土地続きだとみんな言葉って覚えるんですね。ヨーロッパの人はやはり色々な言葉を覚えては交流していく。それはコミュニケーションというのは、男と女がずっと目を見つめ合ってもそれ以上はないんですね。やっぱり何か言わなきゃいけない。言葉がなかったら何も言えない。だから、やはりそれなりに交流するために日本の子供たちは、今からもっと海外の言葉、あるいは海外の人たちと交流する力を持たなきゃいけないということで、これもレガシーの一つとして、私たちはこれから組み立てていかなきゃいけないものだというふうに思います。それからボランティアリズムですね、東京大会ボランティアは7、8万人ですが、200万人ぐらい応募があつて、その中でセレクションをして、お手伝いいただくということで、これは狭き門で大変です。本当のボランティアは災害が起こった時、あるいは草の根のいろんなスポーツ大会とかいろんなことをやる中で誰が本当に無償で心を込めて何かお手伝いをしますよということができると。これを何か編成して、あなたの特技がなんですかと、何か災害が起こったらこの時はスリーピングバッグと何日かの食糧は持ってきてください。そしてあなたの得意な分野を聞いて、どこ行ってください。あそこに行ってください。こういうことをしてください。ということをしつかりやっていく必要がある。これはボランティアリズムの原点になるのかなというふうに思います。それから、観光。観光は2013年1000万人に届かなかった観光客が翌年には1300万人。その次には2000万人に達するような勢いで、今年ももう2000万人を超えました。何が足らなくてホテルですよ。もうホテルの数も足りななきゃそういうことでは、観光立国日本として、実は2020年に2000万人になったらいいと言っていた観光庁が2020年には3000万人とか4000万人とか言うんです。ただそんなに人がきたら泊まる場所もないということも現実ですから、そういうことではそういう施設もしっかりと整えたり。それから日本人は謙虚だからいいことをあんまり言わない。本当は宝がいっぱいあるんです。観光資源。それをやっぱり磨き倒してこの中で楽しんでもらうということもしなければいけないということだと思います。そして、ニュービジネス。ニュービジネスですよ。100人ここに小学生がいたら、30人は今まであった職業に就くでしょう。残り70人は新しい職に就きます。ニュービジネス。ニュービジネスってなんですか。皆様方が一生懸命やられるお仕事に、例えばAI(人工

知能)、ハイテクノロジーを入れたらどうなりますか、あるいは環境というキーワードを入れたらどうなりますか、高齢化した日本・健康というものを組み合わせたら何ができますか。という、いろんな組み合わせをやることによって社会のニーズに合った新しい職業ができるでしょう。これがニュービジネスです。これを私たちが今から考えていかなきゃならない。大変悪いけれども、もしかしたら弁護士さんはあまり数が多くなるとは思えない。すなわち人工知能に全部判例をパーツと検索したらあなた懲役何年ってすぐ出るんです。弁護士さん、もうやることないってことになりますから、だからやっぱり時代は変わっていくということなんです。お医者さんも自分の知識であなた風邪ひいてこうじゃないですか。というのを、パーツとかけたら10分で一番適合するお薬が出るというようなことを今言っていますから、そういう意味では今本当にもう時代は変わると。ということでロータリーも変わっていくといかないし、2020年を機に私たちはいい社会をつくるという時代になってくるかなというふうに思います。

今日、あまり実りあるお話ができなくて申し訳なかったんですけど、私はオリンピックというオリンピックをずっと見に行っていました。リオだけは何のお仕事もなくなりましたから行っていませんが、その他のオリンピックは行ってましたから、100メートルの決勝とかいったら誰が勝つか分かるんです。水泳の200メートル決勝とか見たら、誰が勝つか分かるんです。なんで分かるんですか。誰が勝つんですか。ガチガチになった人は絶対に勝てない。へこみ過ぎている人も勝てない。本当に肩の力が抜けて、自分の体をムチのように使える人、すなわちのびのびした人が勝っています。100メートルはウサイン・ボルトが勝つ。これはもうね、やっぱり彼は素晴らしいランナーですけども、そういう意味ではもうやっぱりのびのびした人が行くんだ。それから、私は人生も一緒かなと。のびのびと生きることが大事かなというふうに思っています。

この国際ロータリー第2590地区がですね、57クラブの皆様、そしてこの地区をみんなでもっと良くしようとしている皆様方。本当にこの地区が益々発展しますように、そして皆様がお健康でいらっしやることを心より祈念いたしまして、ちょうど5時35分になりましたので、これで終わります。ありがとうございました。